

事業名 CD	0103010116	福祉の日記念まつり開催事業	
細分化した事業名			
事業担当課室 CD	200300	福祉課	整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	中項目	地域の絆を深める福祉社会の実現
	小項目	地域福祉体制の確立
関連する個別計画等		根拠条例等
関連する事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	<p>高齢者、障がい者、子どもたち、地域住民が交流し福祉活動に関心を持つことにより、市民の福祉に対する理解の促進及び福祉意識の向上を図る。</p> <p>昭和61年、本県において開催された「かいじ国体」にご臨席のため行幸された天皇陛下より、本市の社会福祉施設をご視察された際に、市民に対して特別なお言葉をいただいたことにちなみ、その日を「福祉の日(10月11日)」と定め、翌年の10月11日に「第1回福祉の日記念まつり」を開催、以降毎年10月に開催し、平成22年は第24回を数える。</p>
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	高齢者、障がい者、ボランティア、児童、一般市民
これまでの改善経過	イベント内容の変更
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 □市 ■委託 □補助金 □その他(実行委員会)</p> <p>社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、区長会、日赤奉仕団、食生活改善推進員等の協力を得て、「福祉の日記念まつり」を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営 福祉の日記念まつり実行委員会 ・期日 毎年10月第1週の週末(例外有り) ・内容 開会式において社会福祉活動貢献者に感謝状を贈呈。友愛バザー、運動会、抽選会などの催し物を行う。
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	<p>参加者の世代間交流としてイベントに参加や協力する場を提供する事で、福祉について関心をもち理解を深め、地域福祉の充実を図る。</p> <p>また、高齢者の外出を促すことにより、引きこもり防止や介護予防につなげる。</p>

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度		21年度		22年度	
A	事業費 (千円)	2,407		3,234		3,150	
財源内訳	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	市債	0		0		0	
	その他	1,306		587		1,028	
	一般財源	1,101		2,647		2,122	
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,073		2,047		2,016	
D	総事業費(A+C) (千円)	4,480		5,281		5,166	
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	161 円		H22)市民1人当りの行政サービス費用		599,027 円	

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実 績 値		
			20 年度	21 年度	22 年度
活動指標	実行委員会開催数	(回)	1	1	1
	担当者会議開催数	(回)	4	4	4
	会場設営 (日数)	(日)	1	1	1
	バザー出品数	(点)	2,686	2,822	2,496
成果指標	参加者総数	(人)	1,800	1,900	1,900
	内 障がい者		30	50	60
	内 園児		160	170	140
	内 協力者		250	240	260
	バザー売り上げ	(円)	454,100	442,500	381,900
効率指標	参加者一人当たりコスト (算出式数値)	総事業費/参加者数 (円) 5,166 千円/1,900 人	2,489	2,779	2,719

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 「福祉の日」を通じ、市民の福祉の理解と福祉意識の向上に寄与する事業として妥当である。
成 果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 参加数や参加団体の広範さを鑑みるとそれなりの成果は上がっている。
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 事業の殆どが事業委託であるが更なるコストを見直す必要性はある。
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり
改 善 ・ 改 革 案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)
	(1) 中長期的 「福祉の日」として開催する事業の見直し (2) 24 年度 (3) 23 年度 第 25 回の節目に相応しい記憶に残るようなまつりになるよう工夫する
	22 年度の改善計画 日本赤十字社の活動を周知する場を設ける。
	22 年度の改善結果 従来の模擬店のコーナーに非常用御飯を設け、豚汁と共に提供する事で試食する場を提供できた。
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) フリーマーケットの参加拡充など、なお一層幅広い年齢層へPRしていく	
課長所見	長期継続で実施している事業であるが、参加者からの意見、要望を事業内容に反映していく必要もある。